４-４供用試験結果

２００９年度北海道での木造住宅（戸建、長屋、集合）の内２×４住宅のシェアは

◆北海道全体　木造住宅：18426 戸　２×４住宅：5191 戸　シェア 28.2%

◆帯広市　　木造住宅　　867 戸　２×４住宅：　457 戸　シェア 52.7%

全道でも３割のシェアになっているが、特に帯広市は５割を超えるシェアとなっていることから、波及効果が大きい地域であることは確実である。

今回の事業ではカラマツ材で生産した２×４製材について、当該事業終了後にいち早く製品化を行うには、現場での実証試験使用が必要と判断し、地元でも有力業者が集う十勝ツーバイフォー協会（会員１９社－協力/賛助会員１８社、合計３７社）に、今回の事業趣旨を伝え協力を得ることができた。

【試験の目的】

今回の供用試験では、カラマツ材の潜在的な悪い部分のイメージの払拭を行うことに加えて、一般ユーザー及び施行者側からの評価を確認すること。

【実証件数】

述べ１０現場にて実証を行った。

【実証結果】

以下より代表５現場を報告致します。

・㈱赤坂建設

【建築面積】

１Ｆ床面積	72.93 ㎡	２Ｆ床面積	58.79 ㎡	延べ床面積	131.72 ㎡

外観

内部１

内部２

構造見学会広告

・カラマツ材２×４の評価について。

大工の意見は多少堅いが苦労するまでではない、ＳＰＦよりも寸法精度が良いのは良かったし、施行過程での狂いなども全く発生はしていない。

顧客サイドの意見は見た目が丈夫そうで良いし、地域材を利用して貢献している実感があるのも良いとのこと

・北栄建設㈱

【建築面積】

１Ｆ床面積	81.98 ㎡	２Ｆ床面積	43.06 ㎡	延べ床面積	125.04 ㎡

外観

内部１

内部２

構造見学会広告

施工側の意見として全く問題はありません。問題となるのは価格だけではないでしょうか？価格差は顧客負担となるので、高いものを使う（使わせる）理由が必要です。嗜好品と同じ様にこれが欲しいと思われるためにはどうしたら良いのかを考えなくては、同様の機能で高いものは使ってもらえません。

カンノホーム㈱

建築面積】

１Ｆ床面積	219.16 ㎡	２Ｆ床面積	39.74 ㎡	延べ床面積	258.8 ㎡

外観

内部１

内部２

構造見学会広告

・大工からは今回の試験材で通直な部材は全体の１０％程度しかなかったので、使用部位ごとの使い分けに非常に苦労したとの報告を受けている。特にネジレが多く、合わせ柱部位などはズレが生じたりした。販売するなら何より品質面を完全にしてからにしなければ問題になるのではないかと考えている

・㈱岡本建設

【建築面積】

１Ｆ床面積	122.55 ㎡	２Ｆ床面積	102.58 ㎡	延べ床面積	225.23 ㎡

外観

内部１

内部２

構造見学会広告

・弊社ではパネル工場でノックダウンしたものを使っているので全く問題はありません。懸念していた問題事項（ネジレ・狂い）もないし、重さについては反対に耐久性がある証拠ではないか？

・施主の意見としては赤味のある色合いが良いし、十勝産の木材を使用している実感が嬉しいと良い評価でした。

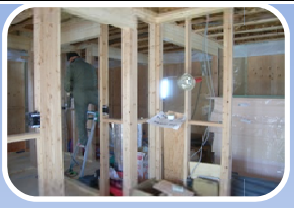
・イゼンホーム

【建築面積】

１Ｆ床面積	65.83 ㎡	２Ｆ床面積	52.99 ㎡	延べ床面積	118.37 ㎡

外観

内部１



内部２

現場公開広告

・既存のＳＰＦ材と比較しても、何ら遜色はないが強いて課題を上げるとしたら、材のネジレは幾分強いか？という程度。
これについては使用部位を分けることで対応できる範囲内なので問題はなかった。

・気になることは今後の価格設定ではないかと思われる。

【考察】

今回の実証試験で得られた意義は非常に大きく、特に地元十勝では、カラマツ材が無垢で構造材として問題なく使えるという考えが希薄であったが、今回の事業を通してこの段階はクリアーできたと考えている。

ハウスメーカーからは慣れは必要であるが、問題なく使用する事が可能であるとの評価をいただいたことと、地域材を使うことによる一般ユーザーの意識向上などの相乗効果もあることが確認できた。

施工現場では暫く負荷重なしで散材された場合に材が動くなどの問題もあったが、これについてはカラマツだけではなく、他の樹種でも発生するのでそれほど問題にはならなかった。

ツーバイフォー住宅も最近では全て職人が現場で加工をするのではなく、パネル工場にてプレカット及びパネル化された部材を使用しているケースも多くなり、工事の方法も在来工法同様に多様化されていることが伺える。

これについては施工業者や現場ごとの品質格差が少なくなることが実証されているのと、施工コストの低減や原材料ロスの減少などの効果があると聞いているので、今後はより普及するのではないかと思われる。

今回の供用試験で材質面での懸念事項は概ねネジレに集中しているので、改善のターゲットは既に出たとおもわれるが、価格面を現行のＳＰＦ材と合わせることは難しい事から、使っていただけるストーリーをどのように描くかが最大の課題である。